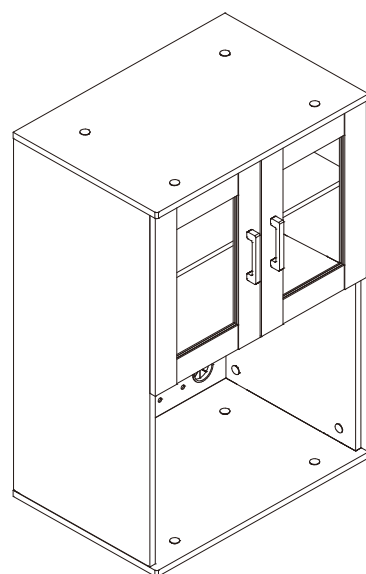


食器棚 ガレット60UP

ver. 2



この度は当商品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

ご使用前に、この取扱・組立説明書を最後までお読みの上、正しい使い方で末長くご愛用下さい。
なお、この説明書はいつまでもご覧頂けるように大切に保管して頂きますようお願い申し上げます。

使用上の注意

- 本品は屋内用です。
- 移動する際は、必ず、載せているものを全て取り除いてから引きずらないよう持ち上げて移動して下さい。
- 収納物や商品の転倒、破損・ケガの原因になります。
- 必ず水平で安定した場所に設置して下さい。
- ストーブのそば等、高温多湿の場所での使用は避けて下さい。
- 変形や変色の原因になります。
- 水分、油、洗剤等が付着した場合は、素早くふき取して下さい。
- 粘着物をはりつけると、板の表面がはがれる恐れがありますので、テープやシール等は貼らないで下さい。
- 天災などの不可抗力や、不当な修理、改造による故障・破損に対する補償等は致しかねます。
- ダンボール箱からの取り出しや組み立ては、2人以上で行なってください。

点検・お手入れについて

- 汚れをおとす際は、薄めた中性洗剤で拭いた後、かたく絞った布等で完全に洗剤分を拭き取って下さい。水分等が残りますと商品表面にあとが残る恐れがあります。アルコール、ベンジン、漂白剤、みがき粉等は使用しないで下さい。色落ちの原因となります。
- ネジ類は、その取り付けが確実かどうか、時々点検して下さい。
- 設置後は、できるだけこまめに換気を心掛けて下さい。

組み立て前によくお読み下さい

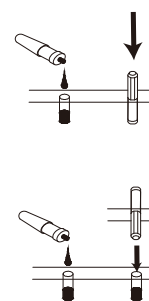
■ ご準備頂くもの

- プラス(+)ドライバー
- ハサミ、またはカッターナイフ
- 少し大きめのダンボール、またはやわらかい布(タオルや布団等)

■ 組み立ての時の注意

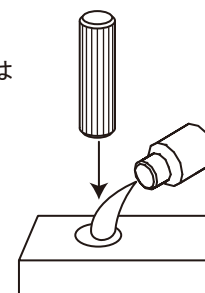
- 商品開梱後、しばらくの間は換気や通風を行うよう心掛けて下さい。
- 安全に組み立てるために2人以上での組み立てをオススメいたします。
- 組み立ては平らな場所で、床などに傷がつかないようにダンボールや、やわらかい布等を敷いて行なって下さい。
- ネジは、最初は緩めに組んでおき、最後に全体のバランスを見ながらしっかりとネジを締めて下さい。
- 部品は正確に取り付けて下さい。

次の部品や小物を使用する場合は、下記の要領を守って正しく組み立ててください

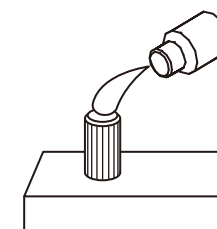


■ ボンド・ダボ(接着について)

これらのボンドマークがあるところでは右記のようにボンドを使用します。



・ダボ穴にボンドを垂らし、ダボをその上から差し込みます。

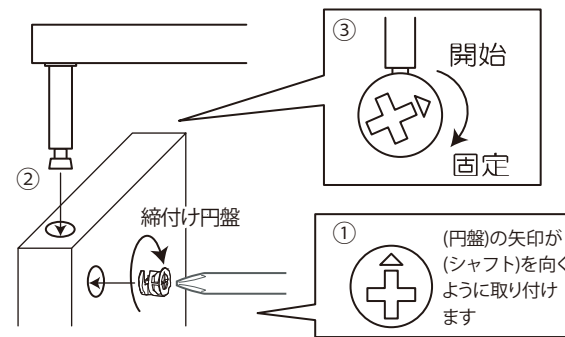
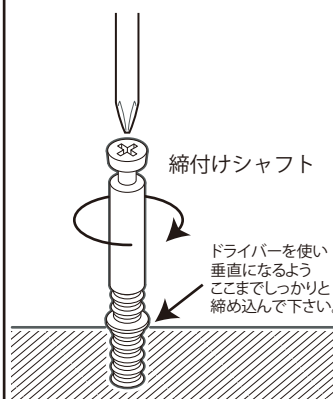


・ダボに直接ボンドを垂らし、穴の部分をかぶせて取り付けます。

■ 締付けシャフト・締付け円盤の使用方法

締付けシャフトと締付け円盤のセットになっています。取り付けは下記の方法で行なってください。

※締付けシャフト・締付け円盤を使用しない商品もあります。ご参考になさってください。



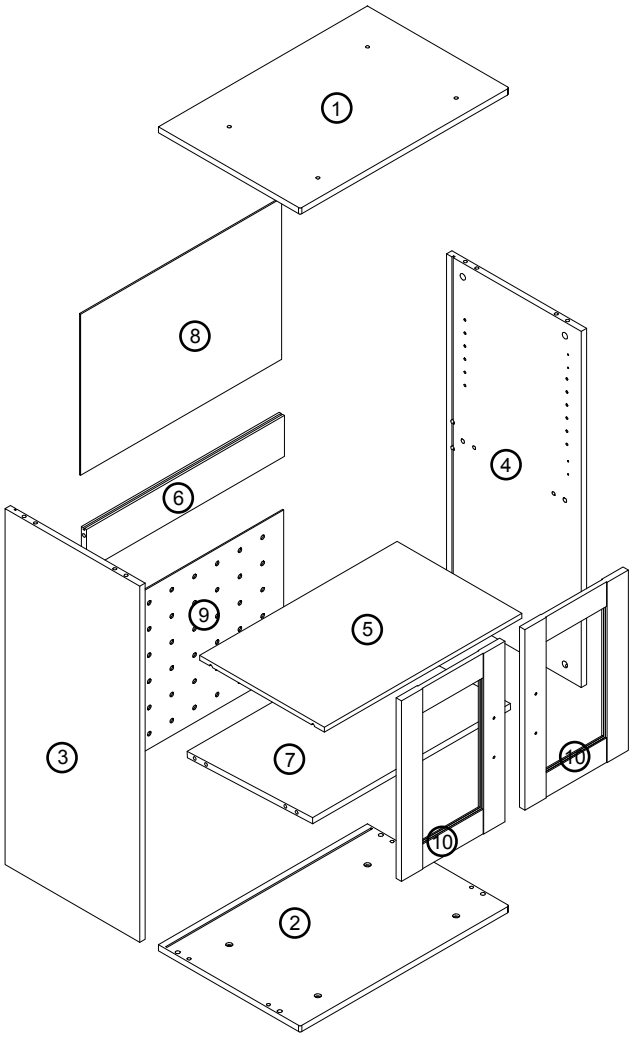
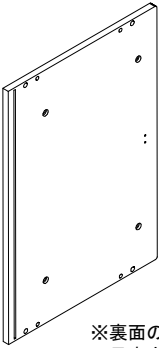
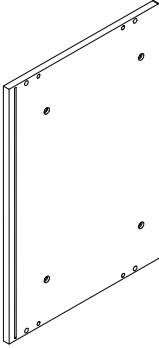
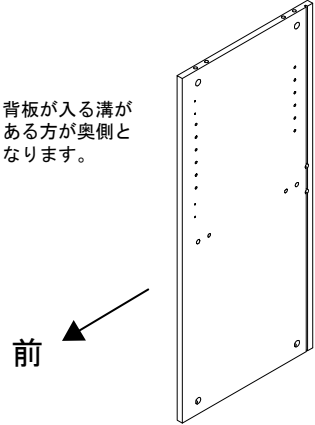
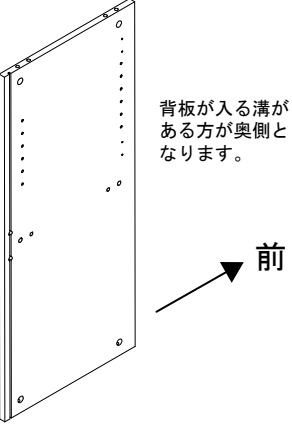

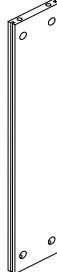
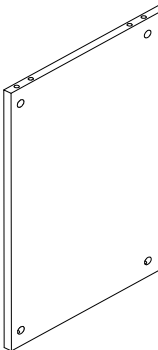
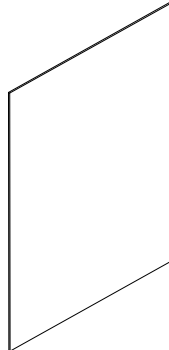
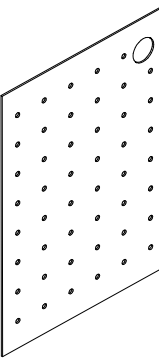
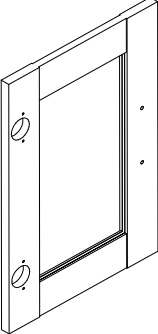
- ① 締付け円盤を穴に取り付けます。
- ② 締付けシャフトを締付け円盤の穴に差し込みます。
- ③ 締付け円盤を+ドライバーで135°~180°右方向に回して固定します。

1

LHT-001


【部品明細】 食器棚 ガレット60UP

※組立て前に部品が全て揃っているかご確認ください。
※組立ては床に布やダンボールを敷いて行い、
商品やフローリング、既存の家具等にキズが入らないようご注意ください。

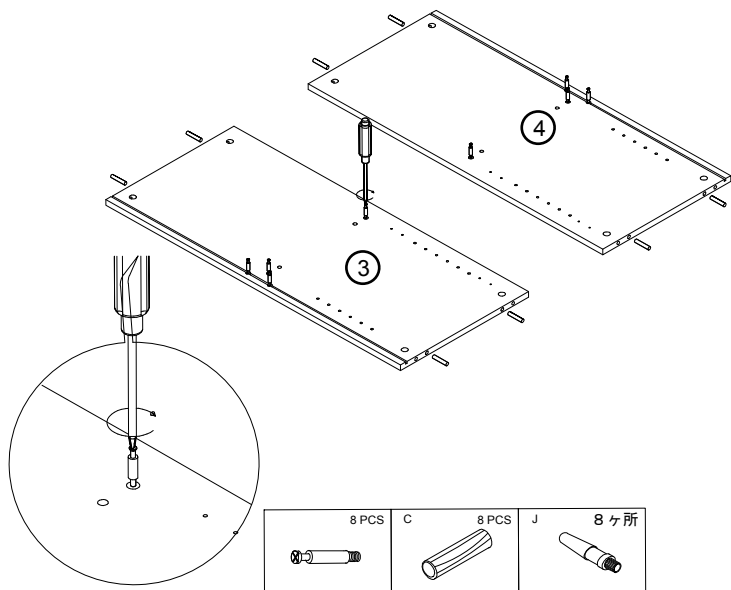
	① 天板 x 1	② 地板 x 1	③ 左側板 x 1	④ 右側板 x 1
				
	⑤ 移動棚 x 1	⑥ 背板棧 x 1	⑦ 固定板 x 1	⑧ 上背板 x 1
				
	⑨ 下背板 x 1	⑩ ガラス扉 x 2		
				

【部品明細】 食器棚 ガレット60UP

※組立て前に部品が全て揃っているかご確認ください。
 ※組立ては床に布やダンボールを敷いて行い、
 商品やフローリング、既存の家具等にキズが入らないようご注意ください。

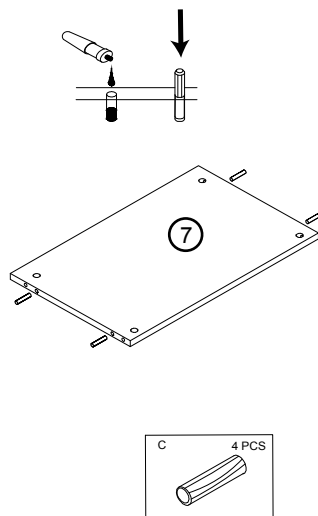
A 締付けシャフト x16	B 締付け円盤 x16	C 木ダボ x12	D 棚ダボ x4	E 取っ手 x2	F 扉受け x1
				 専用ネジ x 4 M4x17mm	 専用ネジ x 2 M3.5x14mm
G 扉ヒンジ x4	H 扉ヒンジ用ネジ x24	I 背板ストッパー x8	J ボンド x1	K 木目シール x16	L 石目シール x8
	 M3.5x14mm	 専用ネジ x 8 M3.5x16mm			
M 転倒防止 x2	N キャップ x8	O めし合わせ x1	P 連結金具 x2	Q 六角レンチ x1	R コード穴カバー x1
 専用ネジ(大) x 2 M3.5x35mm  専用ネジ(小) x 2 M3.5x14mm		 44.1cm	 ※上段と下段を 連結する際に使用します。	 ※上段と下段を 連結する際に使用します。	

1 ③左側板と④右側板にA締付けシャフトとC木ダボを図のように取り付けます。

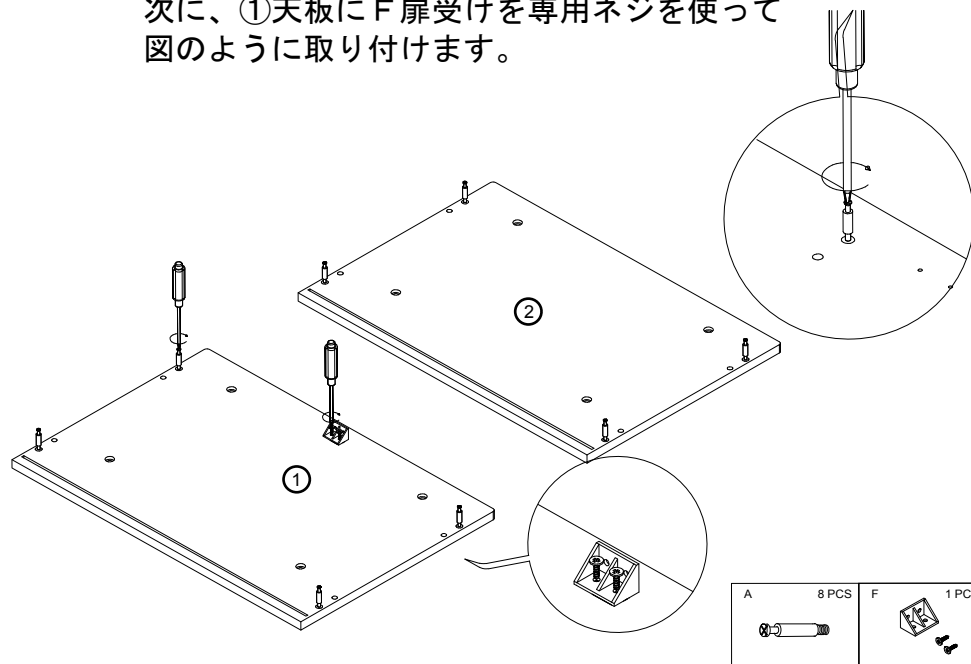


⑦固定板にC木ダボを図のように取り付けます。

C木ダボの取り付けにはJボンドを使って取り付けして下さい。

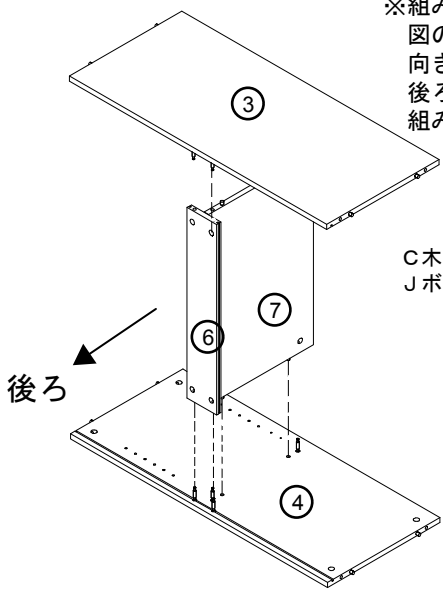


①天板と②地板にA締付けシャフトを取り付けます。次に、①天板にF扉受けを専用ネジを使って図のように取り付けます。

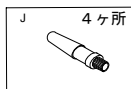
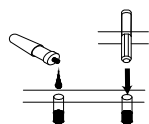


2 ③左側板・④右側板・⑥背板・⑦固定板を図のように組み合わせます。

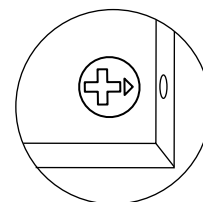
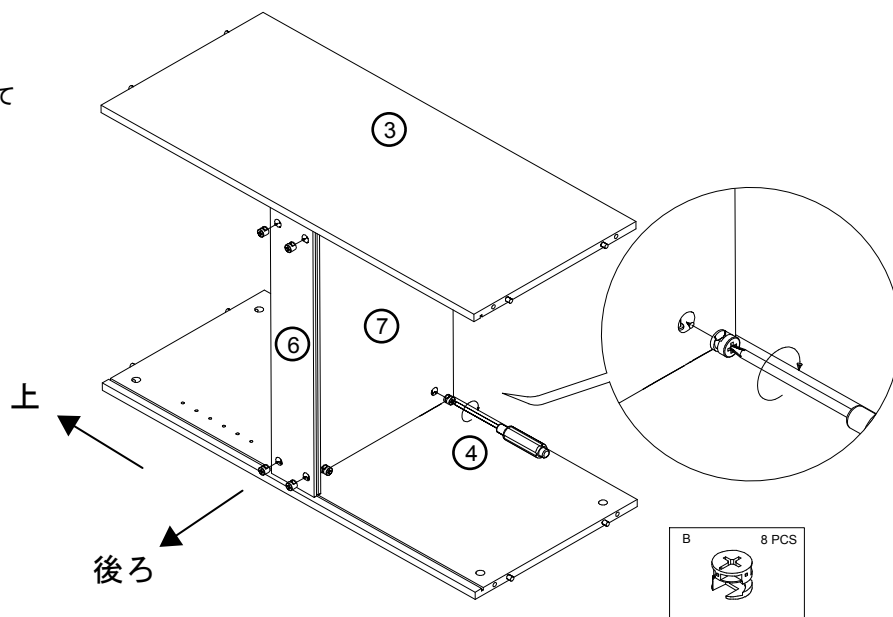
※組み合わせ時は、図の通りの向きではバランスが悪いので、向きを変えて組み合わせて下さい。後ろ面を上に向けて組み合わせると安定して組み合わせやすいです。



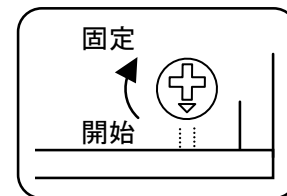
C木ダボの取り付けにはJボンドを使って取り付けして下さい。



その後、⑥背板と⑦固定板にB締付け円盤をはめ込み図のように固定して下さい。(8ヶ所)



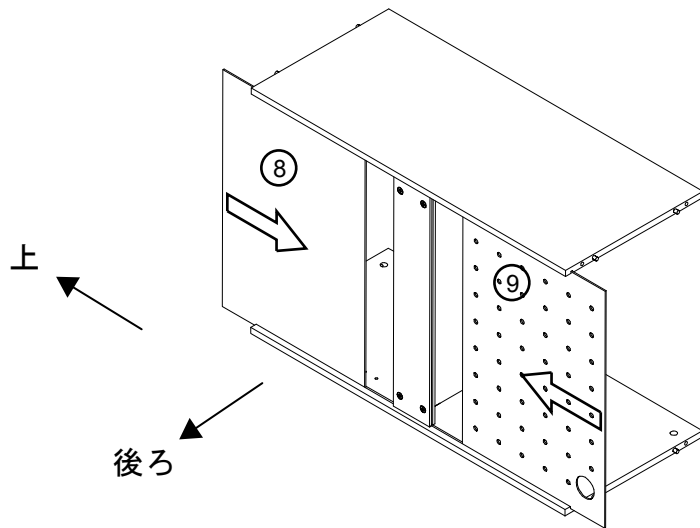
締付け円盤は、締付けシャフトが入る穴へ矢印を向けてはめ込みます。



締付け円盤を時計回りに締め付け、しっかり固定します。

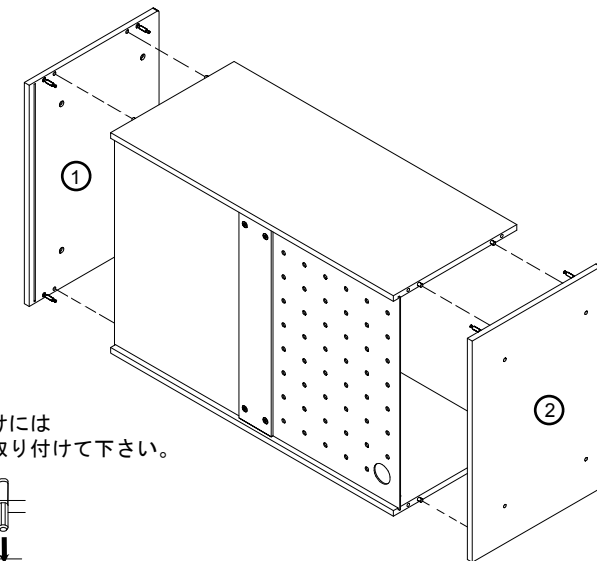
4

- 3 ステップ2で作成したパーツに⑧上背板と⑨下背板を溝に沿って差し込みます。

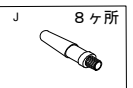
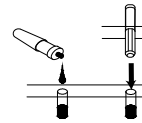


※背板が溝にキレイにはまっているか確認して下さい。
溝がずれて差し込みにくい場合は、⑥背板棧のB締付け円盤を一度ゆるめ、溝を合わせて、再度締付け円盤を回して締めて下さい。

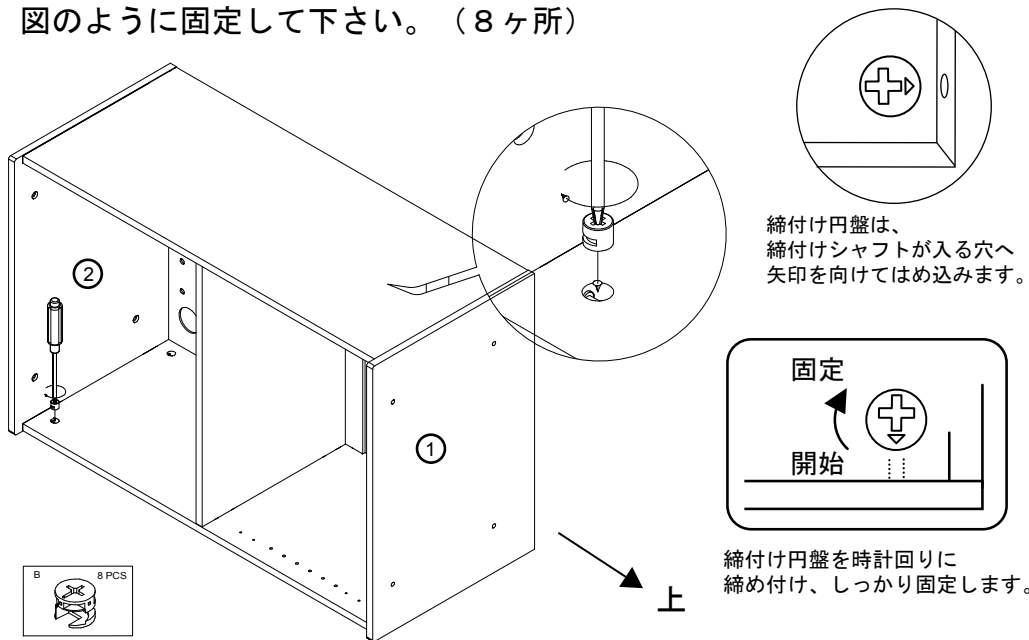
- 4 ①天板と②地板を図のように組み合わせます。



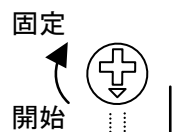
C木ダボの取り付けには
Jボンドを使って取り付けて下さい。



- 5 ③左側板と④右側板の内側にB締付け円盤をはめ込み
①天板と②地板をB締付け円盤を回して
図のように固定して下さい。(8ヶ所)



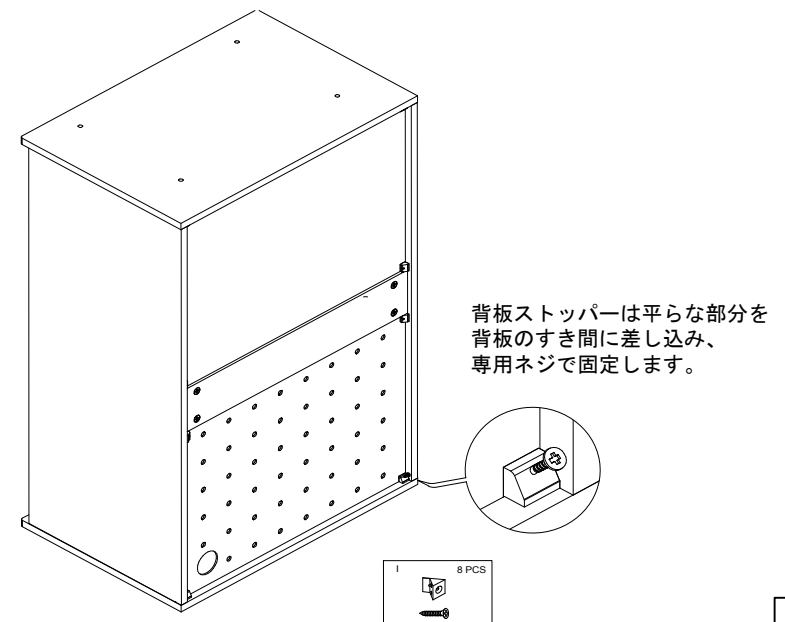
締付け円盤は、
締付けシャフトが入る穴へ
矢印を向けてはめ込みます。



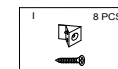
締付け円盤を時計回りに
締め付け、しっかり固定します。



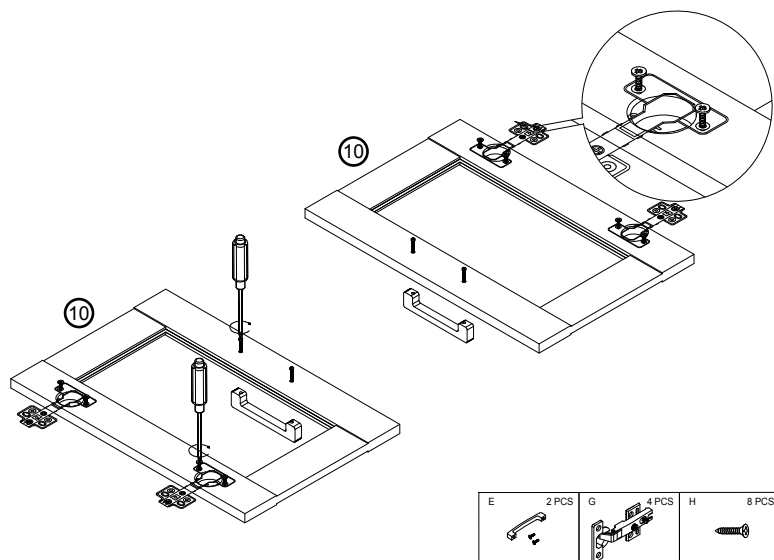
- 6 背面から背板の角部分にI背板ストッパーを専用ネジを使って
図のように取り付けます。



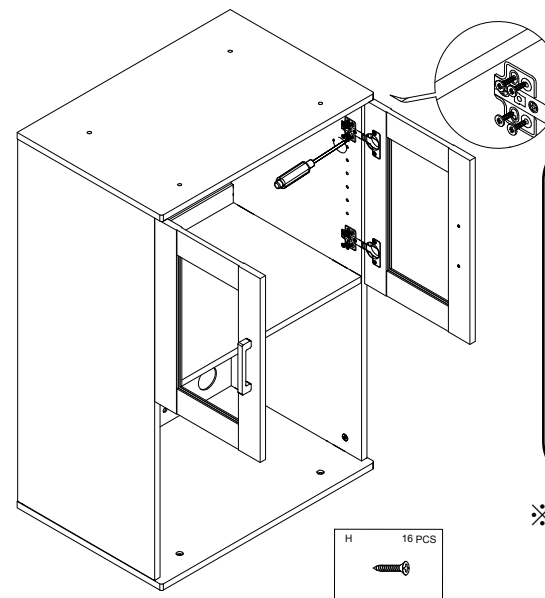
背板ストッパーは平らな部分を
背板のすき間に差し込み、
専用ネジで固定します。



- 7 ⑩ガラス扉にG扉ヒンジをH扉ヒンジ用ネジを使って図のように取り付けます。
その後、E取っ手を専用ネジを使って取り付けます。



- 8 ⑩ガラス扉をH扉ヒンジ用ネジを使って図のように本体に取り付けます。

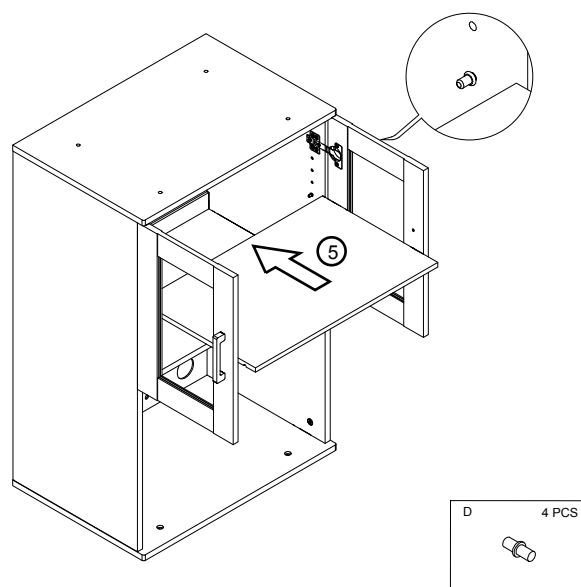


奥側が最初にネジを取り付ける穴
※高さ調整してから締め付けて下さい。

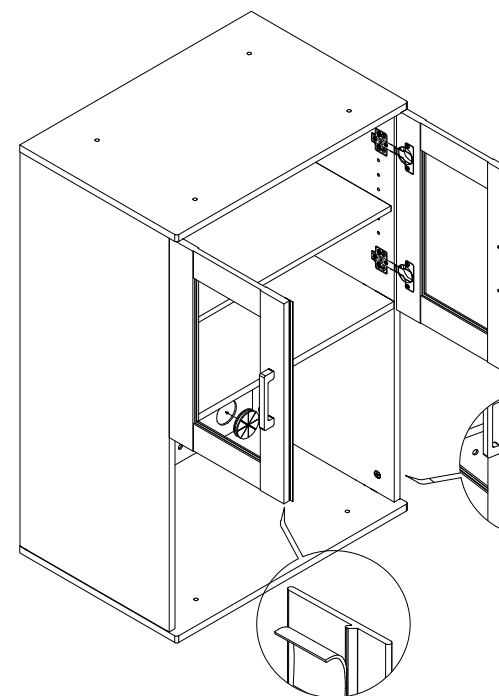
高さ調整を行った後に
ネジで固定する穴

※扉ヒンジの楕円形の穴の方には
本体に目安穴があります。
丸型の穴の方には目安穴はありません。

- 9 D棚ダボを③④側板の穴に差し込み、
⑤移動棚を棚ダボの上に乘せて設置します。

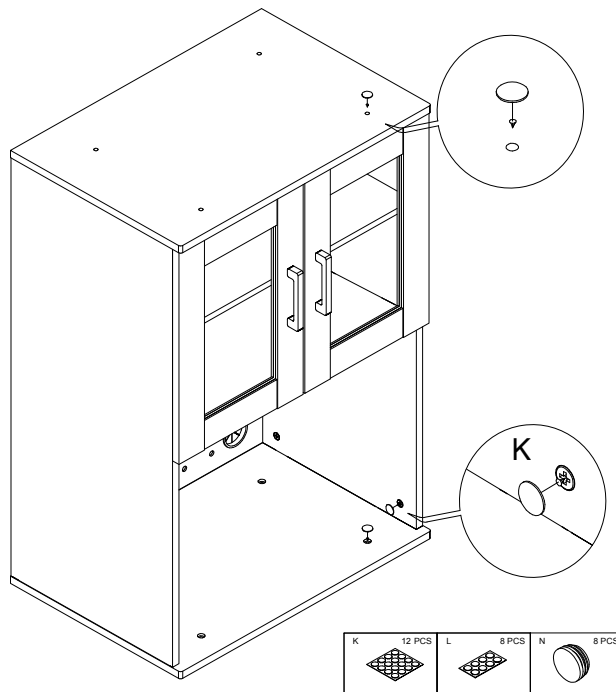


- 10 向かって左側の⑩ガラス扉に
Oめし合わせを図のように
貼り付けます。



次に、⑨下背板に
Rコード穴カバーを
取り付けます。

11



①天板の上面の連結穴に
L石目シールを貼って穴を隠します。
裏面にはNキャップをはめて
連結穴を隠します。

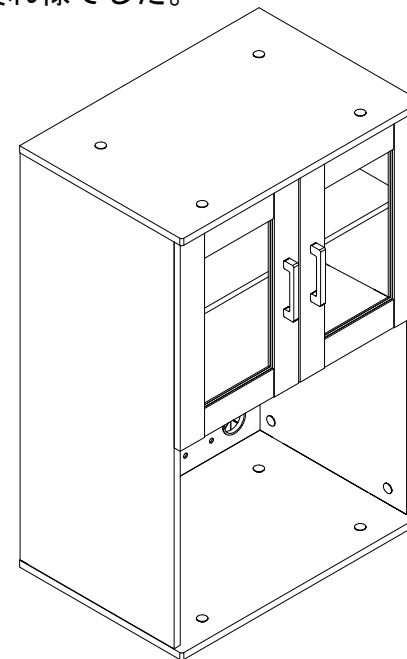
②地板の連結穴は
L石目シールかNキャップを
お好みで選び、隠して下さい。

K木目シールを
B締付け円盤の上に
貼って隠します。

- ・③左側板 4ヶ所
- ・④右側板 4ヶ所
- ・⑦固定板の裏面 4ヶ所

※シールは予備として
多めに入っております。

完成です。お疲れ様でした。



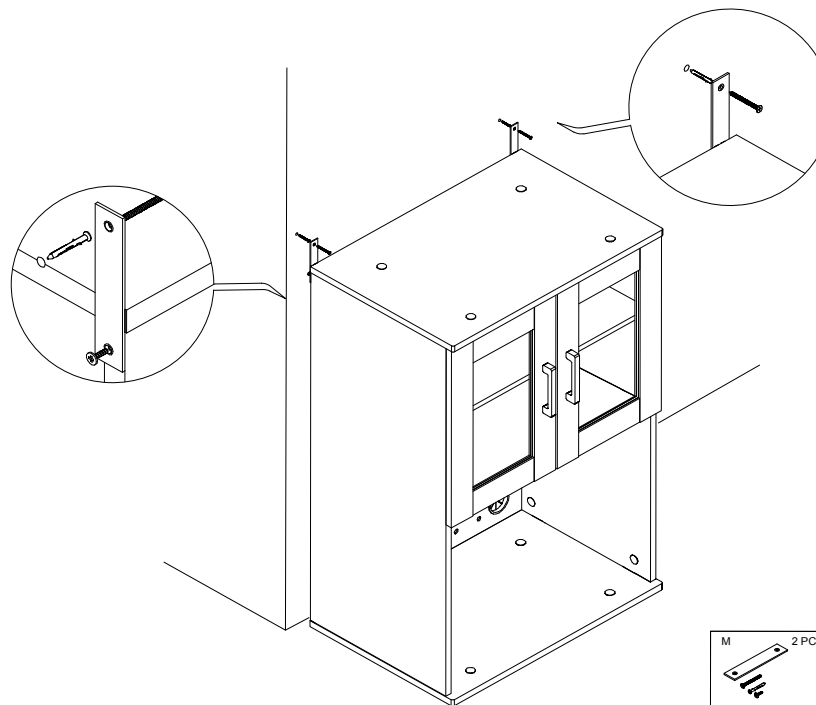
※転倒防止の取り付けについて

転倒防止バンドを専用ネジ(小)を使って
図のように本体背面へ取り付けます。

その後、壁に本体を寄せ、
専用ネジ(大)を使い、図のように壁へ取り付け
固定します。

ネジだけで固定できない壁の場合は、
アンカーを使って固定して下さい。

※アンカーを使用する場合は、
壁にアンカーを入れる穴を開ける必要があります。



7

LHT-001

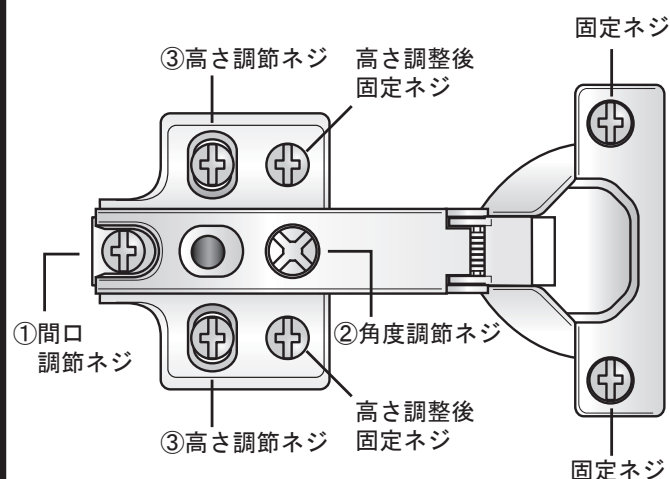
◆ ドアヒンジの調整方法

本体と扉をヒンジで取り付けた際に、扉が傾いたりずれていたりする場合は、ヒンジについている各種ネジを調整することで、扉を美しく取り付ける事ができます。調整するのが「間口調節ネジ」「角度調節ネジ」「高さ調節ネジ」の3箇所です。この3箇所を調節し、キレイに扉を取り付けられるコツをご紹介します。

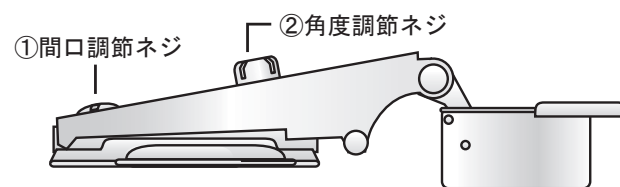
■ヒンジの詳細

ヒンジの各部位を紹介いたします。主に調節するのが

①「間口調節ネジ」②「角度調節ネジ」③「高さ調節ネジ」の3箇所です。



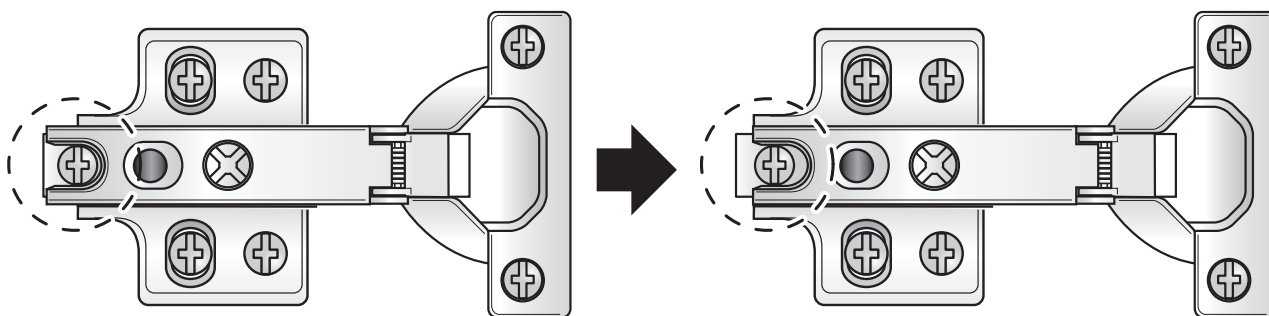
ヒンジ：上面図



ヒンジ：側面図

①間口調節ネジ…扉と本体の隙間を調節します。

まずは「間口調節ネジ」からご説明いたします。「間口調節ネジ」は扉と本体の間隔を調節する部分です。ヒンジを扉に取り付ける前に、事前に「間口調節ネジ」をゆるめて、スライド部分を約3mmほど出してネジを締めます。このスライド部分の出ている幅が広ければ広いほど扉と本体の間隔が広がります。



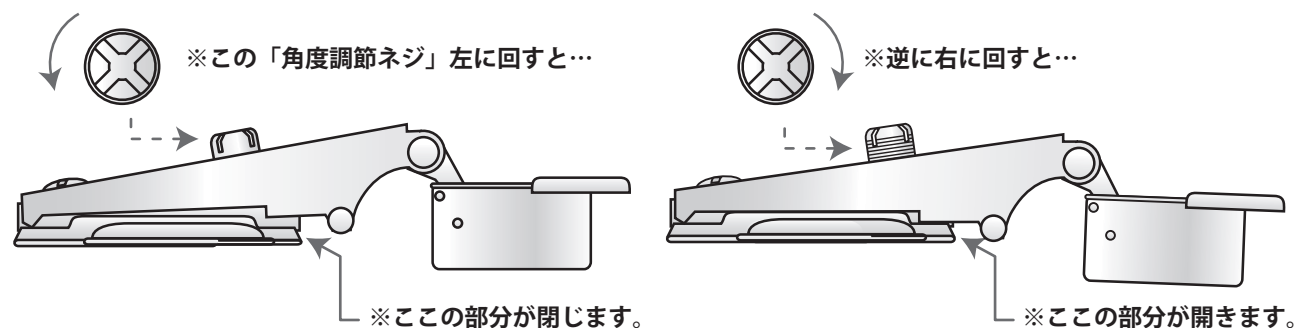
出す前

出した後

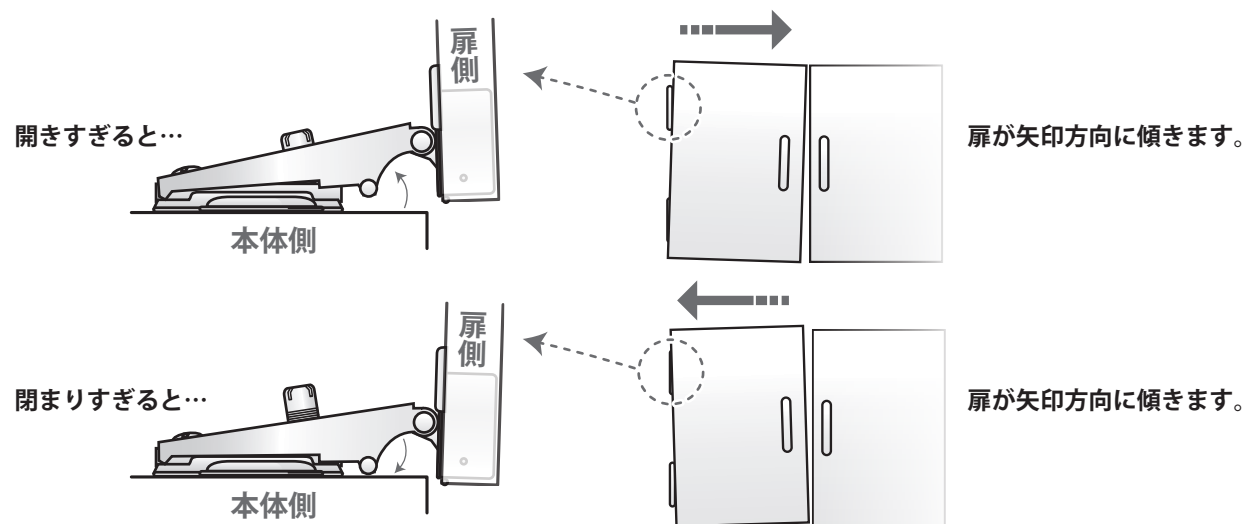
扉を本体に取り付けた後、扉を開閉してみて扉と本体の間隔をご確認ください。先ほど出した約3mmが丁度いい間隔の目安になりますが、もし開閉の際、扉の端が本体に当たるようでしたら、再度「間口調節ネジ」を緩めて微調節してください。

②角度調節ネジ…扉の角度・扉同士の隙間を調節します。

続けて「角度調節ネジ」をご説明いたします。「角度調節ネジ」は扉の角度・扉同士の隙間を調節する部分です。



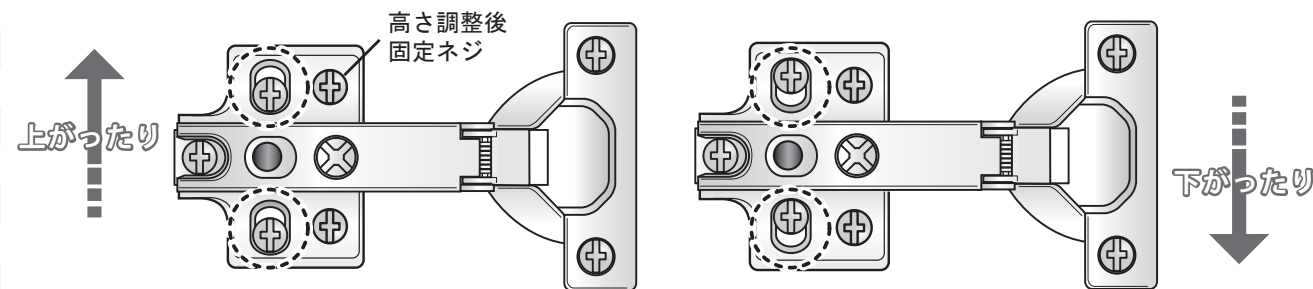
つまり、この角度調整ネジを回すことで扉の角度・扉同士の隙間を調整できるわけですが…



ヒンジは通常上下2つで1セットなので、「角度調節ネジ」を回すときは、上下のヒンジを合わせる必要があります。片方だけ角度が違っていると扉の傾きの原因になりますので、扉の傾きが気になる時は、ネジの回転数(1回転、2回転…)を上下であわせて、ヒンジの角度を同じにしてあげる事で、扉をまっすぐ取り付けることができます。

③高さ調節ネジ…扉の高さを調節します。

最後に「高さ調節ネジ」をご説明いたします。「高さ調節ネジ」は扉自体の上下の位置を調節する部分です。



左右の扉の高さが違う場合は、この「高さ調節ネジ」を少し緩めて扉の上下の位置を調整し、丁度いい高さのところまで改めてネジを締め付けて下さい。高さの調整ができましたら横の固定ネジで固定してください。

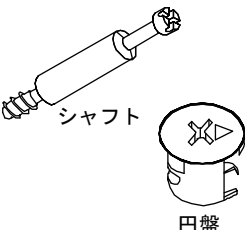
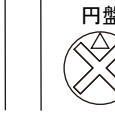
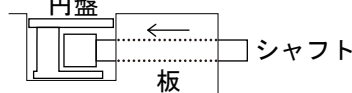
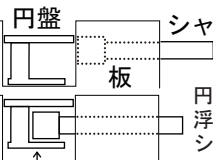
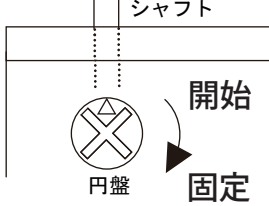
以上のことをふまえて調節することで、キレイに扉を取り付ける事ができます！
少しお手間はかかりますが、ぜひこれらを参考にチャレンジしてみてください！

※必ず、組立前にご確認ください。


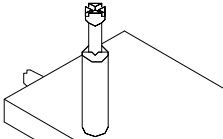
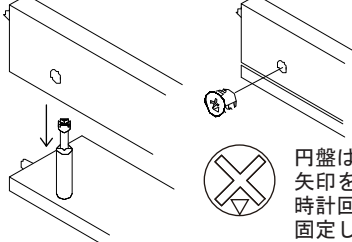
締付けシャフト/円盤の取付について、簡単な手順をご紹介します。

- 締付けシャフト/円盤を使用する商品は、個体差により組説の手順通りだと取り付けにくい場合がございます。作業前に下記の注意事項をご確認ください。
- 個体により、円盤を先に取付た状態だと円盤が取付穴に沈みすぎ、シャフトの挿入が難しい場合がございます。このような場合は、円盤を取付穴最奥から少し浮かせることで、シャフトの挿入がし易くなります。

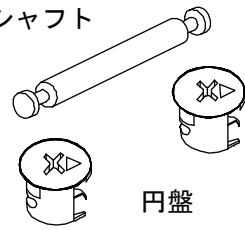
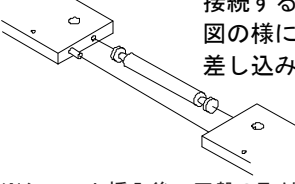
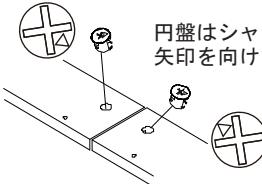
締付けシャフト・締付け円盤の基本

パーツ	円盤の取付向き	円盤にシャフトを差込む	締め方
「締付けシャフト」 「締付け円盤」 2種類のパーツがあります。 	締付け円盤は、三角の目印が穴の開いている向き(シャフト側)に来るように取り付けます。  ※円盤には矢印の他にアルファベットや丸印が刻印されているものがありますので、ご注意ください。	円盤にシャフトを差込みます。  ※円盤が取付穴に沈みすぎる場合※  円盤を少し穴の底から浮かせた状態でシャフトを差込みます。	締付け円盤を時計回りに締め付け、しっかり固定します。 

ネジタイプの締付けシャフトについて

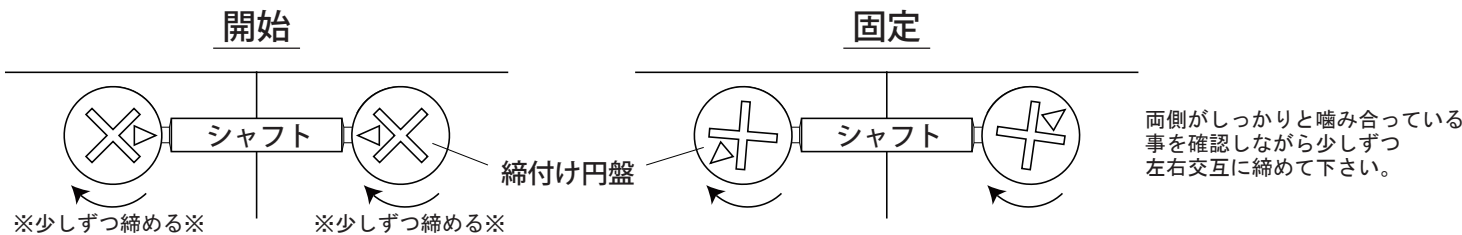
片側がネジになっている「シャフト」の取付手順を説明します。 	1.シャフトを板に取付ます ※ネジの締め具合に注意※ ネジ部が丁度隠れる程度が適切です。 円盤の取付が難しい際は見直してください。  ※締めすぎたり、緩る過ぎると次の工程が困難になる場合がございます。	2.円盤を取付、固定します 接続する板をシャフトを取り付けた板と組み合わせ、次に円盤を矢印の向きに注意して取り付け、固定します。 
---	--	--

双頭締付けシャフトについて

「円盤」を2つ使用する締付けシャフトの取付手順を説明します。 	1.シャフトを板に取付ます 接続する2枚の板に図の様にシャフトを差し込みます。  ※シャフト挿入後、円盤の取付穴をのぞき、シャフトが左右均等に入っているかご確認ください。 均等でない場合は調節してください。	2.円盤を取付ます 次に締付け円盤を矢印の向きに注意して取り付けます。 
--	--	---

3.締付け円盤を回して固定します。

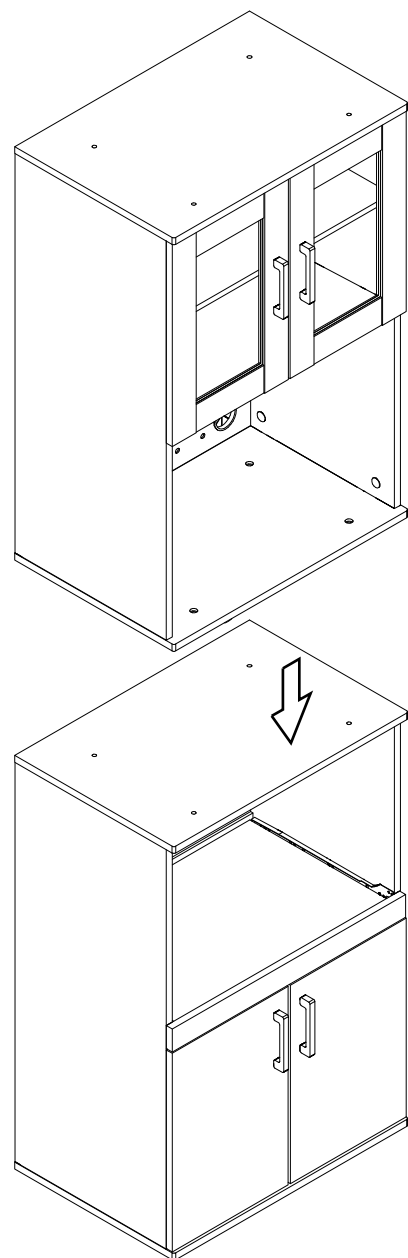
片方を先に締めきってしまうと、反対側のシャフトの頭が円盤に上手く咬み合わない場合があります。必ず両側が噛み合っている事を確認しながら左右交互に締めて下さい。



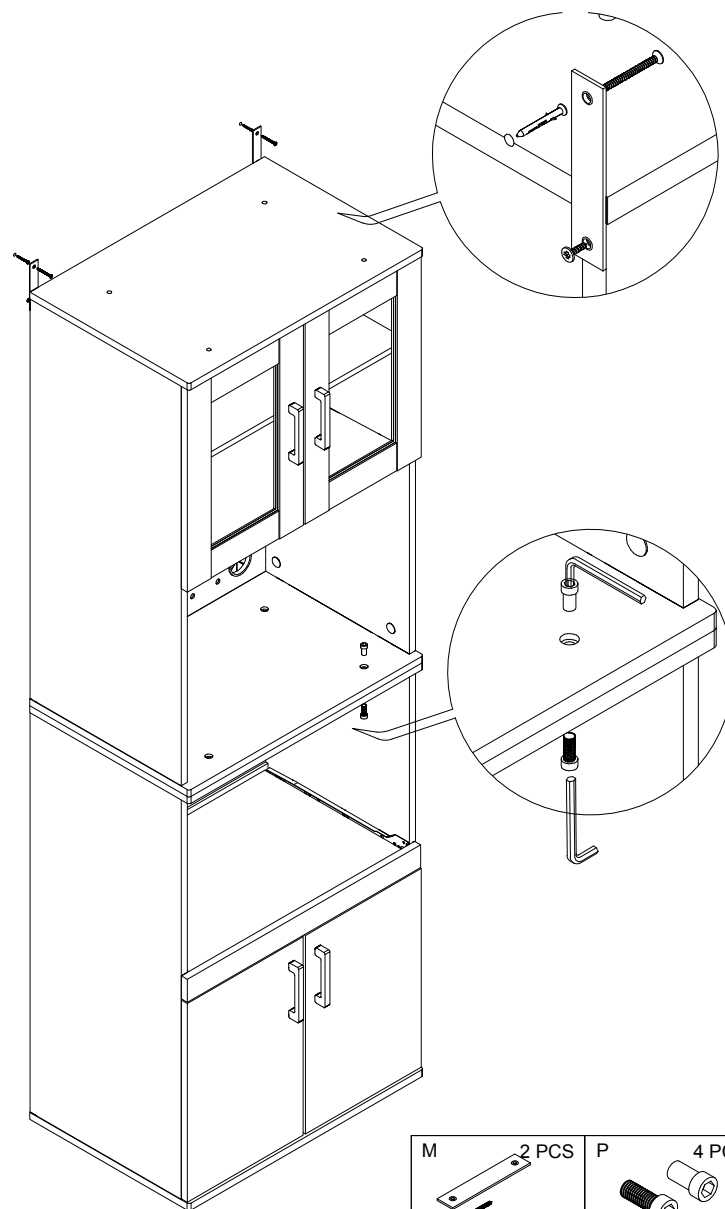
<上下連結についての注意 60>

ガレットシリーズは同サイズでの上下連結が可能な商品です。
下記の注意をよく読み、安全にご使用下さい。

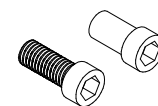
- ① 下段の上に上段を重ね、上段の地板と下段の天板の穴を合わせます。



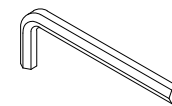
- ② 連結には必ず下記の用にP連結金具を使用して4ヶ所でしっかり固定して下さい。
また、安全のためM転倒防止を使って、壁に固定するようにして下さい。



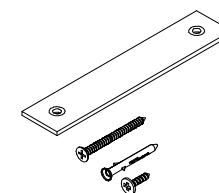
【必要部品】



P 連結金具



Q 六角レンチ



M 転倒防止

- ③ 連結可能な組み合わせは下記の6通りのみです。

下記以外での上下連結は危険ですので、連結しないで下さい。

